

行動生理学研究室 Behavioral Neuroscience Laboratory

[Top](#) [Research](#) [News & Topics](#) [Staff & Members](#) [Activity](#) [Publication](#) [Contact Us](#) [Link](#)

News & Topics

2010.4.～

2010.4～

2009.4～

7/13 アメリカ短期語学研修報告

6月5日～7月4日の4週間、首都大学東京の米国英語研修プログラムに参加してきました。本プログラムは、英語による情報発信能力向上を目的としたものであり、首都大学東京の大学院生を対象として、毎年10数名の院生を派遣しているものです。

プログラムが実施されたWashington DCにあるアメリカ最古のカトリック系の名門私立大学で、クリントン元大統領が卒業した大学としても知られています。立地はポトマック川近くの閑静な住宅街のジョージタウン地区にあり、治安もよく、非常に雰囲気がよいところでした。



(ジョージタウン大学)

今回のプログラムに参加したメンバーは11人で、専攻する分野は政治学、経済学、哲学から生物学、物理学までと多岐にわたるメンバー構成でした。授業は、主にPresentation、Writing、Discussionから構成されており、スライドの作り方、質疑応答の仕方、さらには緊張への対処方法などを学びました。また、アメリカの大学らしく、授業への主体的な参加と多くの宿題が求められ、毎日、授業と宿題に追われるハードな日々でした。そのようななかでも、時間を見つけて観光に出かけ、リフレッシュもしました。観光では、政治の中心ワシントンDCらしく、ホワイトハウスや議会等に足を運びました。また、ワシントンDCを本拠地とするワシントン・ナショナルズの試合も観戦し、ワシントンDCを満喫できました。



(ホワイトハウス)

くに見える議事堂)

(遠)



(ナショナルズ・パーク)

本プログラムのメインイベントは、プログラムの集大成をお披露目するファイナルプレゼンテーションです。プレゼンテーションでは、自分の研究について、ジョージタウンのスタッフや首都大学東京の関係者へプレゼンテーションを行いました。プログラムの成果が問われるプレゼンテーションは、緊張感の中行われましたが、質疑応答も活発に行われ、非常に良い経験となりました。



(正装してプレゼン)

本プログラムでは、英語による情報発信能力について、多くを学ぶことができ、これら得たことを今後に役立てていきたいと思えます。さらに、今回のアメリカ滞在では、授業だけではなく、他分野の院生達と共同生活を送り、そのなかで、日本では触れることができない非常に多くの経験や刺激を受けることができました。このような貴重な経験をすることができ、濃密な4週間を過ごすことができました。